

「アタリマエ」という 改善指導の「ブレーキ」を外せ

「せっかくの改善」を「一言」で切り捨てる「悪魔の言葉」がある。
それは「そんなことはアタリマエじゃないか」
「そんなものは改善ではない」—— などが。
だが、「その改善」が実施される前、
そのような「アタリマエのこと」が実施されていたらどうか？
「アタリマエのこと」が実施されていなかったため、
そのため、イロイロな問題や不都合が発生していた。
「アタリマエのこと」の実施で、それらが少しでも、
解決されたり、解消したなら、それは「立派な改善」。

1章 2
「アタリマエのこと」を
「アタリマエにする」のが改善

2章 6
「アタリマエの改善事例」の研究
①「補助具活用」で「困らナイ化」
②「補助具活用」で「分別化・区別化」
③「整理・整頓」とは「分別化・区別化」
④「定数&定量化」で「困らナイ化」
⑤「モシナイ化・忘れナイ化」の改善
⑥「表示方法」も変化に対応
⑦「写真化」で「見える化」
⑧「透明化&吊す化」で改善的収納
⑨「小分け化・細分化」で手っとり早く改善
⑩「右のものを左にした・だけ」で改善

3章 26
「同業」と「異業種」の
「組み合わせ」による
事例教材



01

特集1 改善・指導講座⑥

「アタリマエ」という 改善指導の「ブレーキ」を外せ

41

特集2

「かしこい表示」見せます

連載

- | | | | |
|----|---|----|---|
| 29 | Dr.森井のサイバーセキュリティ講座
第8回 パソコン、スマホの定期健診!? | 56 | 改善バカ語録 |
| 31 | 使うってワンダフル!
海外行く前にの巻 | 57 | 今月のカイゼン事務局さん |
| 32 | 5Sなおばちゃん
麦茶ボトルも「2ピン方式」 | 58 | カイゼンQ&A スバリ解答
「片付け」と
「整理・整頓」の違いは? |
| 33 | 漫身創意
機能活用 お化け編 | 60 | 次号予告・かいぜん英単語帳 |
| 34 | シロウマップ
徳 島 県 | 61 | カイゼン供養
・下げて安全 カレンダー交換
・「無い時」は自動で出てくる
表示札 |
| 38 | 本 ななめ読み
困ったら、「分け方」を変えてみる。
下地 寛也 著 | | |
| 40 | 読者から | | |
| 54 | ピケットスクエア | | |

今月の表紙

螺旋香 蚊取り線香、虫ピン
270×360cm 2016

／森 竹巳「百均造形」(土曜美術社出版)

「アタリマエのじょう」を

「アタリマエに」できる「ように

「仕事のやり方を工夫すること」が改善

「改善活動」が不調&停滞の会社は上司による「3つのブレイキ」が、かかっている。

それは、

- ①「アタリマエ・じゃないか」
- ②「モノマネやバクリはダメ」
- ③「改善内容は詳しく書け」

——といった「言葉や指導」である。

「ブレイキ」をかけたままでは、いくら、「もっと改善を」などと言って、アクセルを踏んでも意味がない。

そのような場合、ただ、改善活動を阻害している「ブレイキ」を外すだけ

でいい。それだけで「改善活動」は、活性化していく。

今月号では、特に、

*「そんなことはアタリマエ」
*「そんなものは改善ではない」
——といった「ブレイキ」の解除方法を「具体的な事例」を基に、じっくりと解説する。

☆

「そんなことはアタリマエ」というセリフは、「どんな改善」であろうと切り捨てができる「悪魔の言葉」だ。たとえば、次のような「改善」やり

方の変更&工夫」も「アタリマエ」の一言で、すべて「瞬殺・斬殺・惨殺」される。

- *「見える化した」
- *「やり易化した」
- *「困らナイ化した」
- *「トラぶらナイ化した」
- *「イライラしない化した」
- *「バタバタしない化した」
- *「遅れナイように工夫した」
- *「間違えナイように工夫した」

☆

なぜなら、仕事において、これらは

すべて「アタリマエのこと」に過ぎないからである。

「仕事」というものは「間違えナイように・遅れナイように・する」のが「アタリマエ」である。

しかし、「実際の仕事」では、どの会社でも、どの職場でも、間違いなく、遅れなく、アタリマエに仕事が、なされていくだろうか。

現実には「イロイロな要素や様々な制約」があり、また「生身の人間」がやることなので、どこでも「間違い&遅れ」が発生している。

「より良い手段・方法」への「やり方への工夫」という改善がなければ、「間違いだらけ」&「遅れっ放し」で「アタリマエ」のことがデキない。

☆

つまり、「改善」とは、「アタリマエのこと」が「アタリマエにデキる」ように「やり方を変更&工夫すること」である。

どこが改善か そんなのアタリマエではないか

何を今さら
なぜ、もっと
早くしなかったのか



「現実」の「アタリマエの基準」を直視せよ

なぜ、「せっかくの改善」に対して、多くの会社や職場で「アタリマエ」という言葉による「否定的な切り捨て」がなされるのだろうか。

それは「アタマの中」で考えている「理屈によるアタリマエの基準」と、「現実を基準としたアタリマエ」とを混同しているからだ。

たとえば、「理論&理屈」では、
◎「必要なものは、即座に取り出す」
◎「問い合わせには的確に対応する」

——というのが「アタリマエ」だろう。だが、実際の職場の「現実・実態・実情」は、どうだろうか。誰もが

★「アレがない。コレがない」
——などと言って、探しているのが「現実」ではないだろうか。

「問い合わせ」に対して、

★「調べてから、また連絡します」

——など「余計な手間」をかけているのが「実態」ではないだろうか。

そのような「現実を直視」すれば、

◎「スグ、取り出せるようにした」

◎「即答できるように、工夫した」

——ということが、まさに「現実に対応した改善」と納得される。

「アタリマエの基準」は、それぞれの会社や職場の「現実・実態・実情」によって、異なっている。

たとえば、

「必要なものは3秒以内で取り出せるように、常に改善している会社」と、「いつも、誰もが、何かにつけて、探している会社」では、「現実的なアタリマエの基準」は異なっている。

あるいは、

「毎日、定時に退社できるように常に改善している会社」と「長時間の残業が常態化している会社」では、「労働時間に対するアタリマエの基準」は、大きく異なっている。

「定時退社がアタリマエ」の会社と「毎日、残業するのがアタリマエ」という会社では、「職場の雰囲気や社員の健康状態やモチベーション」、さらに「生産性」——など、あらゆる点で異なっている。

その「現実的なアタリマエの基準」の違いが、そのまま「会社の格差」となっている。

それゆえ、「そんなことは、アタリマエだ」というセリフが言えるのは、そのような「アタリマエの基準」が、「実施→実現化」され、すでに「現実化」されている職場・だけ」である。

現実が「アタリマエの基準」に達していない会社では、「アタリマエのことをアタリマエにできるようにする工夫」こそ、「改善そのもの」である。

現実直視

仕事では **アタリマエのこと** が **実施** されていない。そのため

余計な手間 や **余計なトラブル** が **多発** している。それが **現実** である

その **現実を直視** すれば **アタリマエの改善**こそ **真の改善** であると **実感** できる

その **現実を認識** すれば

アタリマエのこと を **アタリマエにする** のが **本当の改善** であると **納得** される

「アタリマエの改善事例」の研究
「補助具活用」で「困らナイ化」

困ったら、「困らナイ化する」のが改善である。ゆえに、改善しない人は問題に直面すると、「困りっ放し」になってしまう。

では、どうすれば、「困らナイ化」ができるか。それには、とりあえず、「○活用」という「改善の定石」が勧められる。

とりわけ、「補助具活用」は、手とり早い「実施・効果」が期待できる。

☆

せつかくの家族旅行も、子供がむずがったり、騒いだりすると、ゆっくり買い物も楽しめない。

お客様も困るが、売店のスタッフも困る。そこで子供を「遊ばせる工夫」が必要となる。

「ショッピングセンター」などでは

「キッズ・コーナー」に遊具や玩具の用意がなされている。

だが、「ホテルの売店」で、そんな「大掛かりなこと」はできない。そこで、このホテルならではの「ちょっとした工夫」が。

それは「温泉街のマップ」をボード化し、「マグネット付のミニカー」で遊べるようにしたもの。

☆

「困ったら」↓「困ら・ナイ化」という工夫は、「接客業・だけ」でなく、「製造の現場」でも同様だ。

通信ケーブルの「差し替え」が煩わしく、しかも、「誤・接続」のおそれもある。そこで「何らかの工夫」がなければ、

「間違えるな」

「気をつける」

——と「言われる・だけ」だろう。

しかし、「改善マインド」のある職場では、「切り替えスイッチ」という「補助具」による工夫で「やり易化・面倒くさくナイ化・間違えナイ化」という改善がなされる。

そのおかげでイチイチ・そのつど・ワザワザ、「ケーブルを差し替える手間」がなくなり、「間違い」もなくなった。

☆

もつとも、すでに、「切り替えスイッチ」を採用している会社や職場から見れば、「この改善」は、



★「アタリマエじゃないか」

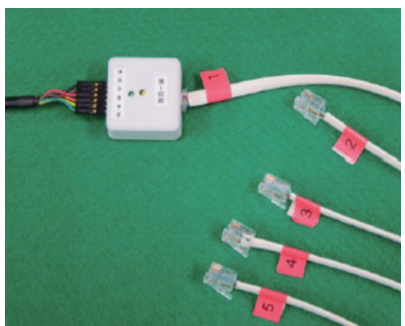

★「今更、何をやっているのか」

★「もっと早くやるべきだった」

——ということになる。

だが、その「アタリマエのこと」をやっていないで「困っていた職場」では、この改善で「困らナイ化」ができたのなら、「立派な改善」である。

改善前(問題点)	改善後(対策)
「小さいお子様」連れのお客様は子供の世話に手間がかかるのでゆっくりショッピングできない。	「温泉街マップ」をボード化して、「磁石付のミニカー」で子供が遊べるようにした。
	
	補助具活用
	やり易化
	困らない化
効果	お子様が遊んでいる間、お客様はゆっくり買い物できるので、家族客に喜ばれている。

改善前(問題点)	改善後(対策)
「接続替え」に手間がかかる。「誤接続」のおそれがある。接続部の故障の可能性。	「切り替えスイッチ」を作成した。
	
	補助具活用
	やり易化
	困らない化
効果	切り替えが簡単になり、誤接続もなくなった。コネクタの抜き差しがないので、故障リスクも低減。

「補助具活用」で「分別化・区別化」

「補助具活用」の改善は、すべてを「自作しなければ・ならない」というものではない。

すでに「商品化されているもの」や「誰かが作ってくれたもの」を、そのまま活用してもいい。

もちろん、必要に応じて、それらをさらに「加工&改造」してもいい。

☆

「書類」は「積み重ねる」と管理が大変だ。何が、どこにあるか、わからなくなるので、「必要な書類」を探すのに、「多大な手間」がかかる。

ゆえに、「改善のない職場」では、書類の山を築いたり、壊したりという「発掘作業」が、飽きることなく繰り返されている。

一般的には、

◎「置くな、立てよ」
◎「置くな、吊せ」

——という「改善の公式」に従い、「横のものを・縦にする改善」にて「積み重ねの弊害」の解消が図られている。

だが、それだけでなく、「棚」や「ラック」という「補助具」を活用するという「対処法」もある。

☆

ナニゴトも「一緒くた」が良くない。書類であれ、何であれ「混雑・混在・混同」——していると「探す」という「最もムダなこと」に、多大な時間と労力が奪われる。

そのような「ムダ」から、「手抜きする」には、「○○化」という「改善の定石」が役に立つ。

特に、「一緒くた」による「混乱・混在・混同」という問題への対処には「分別化・区別化」——という定石が威力を発揮する。

「分別化・区別化」を、わかり易く言えば、それは「分ける」ということである。

◎「分ければ、ワカる」
◎「分ければ、デキる」

——とされているように、ナニゴトも、とりあえず、「分けて・みる」ことによって、「一緒くた」混雑・混在・混同」や「探す」などの「問題の大半」は解決される。

☆

もちろん、すでに「多段ラック」を活用している会社や職場からすれば、「このような改善」なども、まさに「アタリマエ」に過ぎない。

だが、その「アタリマエ」をやらす「困っていた職場」では、「ラックによる分別化」やり易化・困らない化」は「立派な改善」である。

改善前(問題点)	改善後(対策)
「予約のFAX」が多すぎて「優先順位」に迷うことがある。	「日付別・トレイ」に分けて「予約処理」の優先順位がわかるようにした。
<p>補助具活用</p> <p>分別化 区別化</p> <p>わかり易化 やり易化</p>	
<p>効果 一目で、「優先順位」がわかり、「処理モレ」や「忘れ・放置」がなくなった。</p>	

改善前(問題点)	改善後(対策)
バルブは「形」が似ており種類も多いので、間違い易い。	バルブを「形状」や「サイズ」ごとに分別した。
<p>補助具活用</p> <p>分別化 区別化</p> <p>わかり易化 間違いナイ化</p>	
<p>効果 「探す手間」がなくなり、「間違える」こともなくなった。</p>	

「整理・整頓」とは「分別化・区別化」

「整理・整頓」を「片付けること」
 ————と
 思っている人がいる。だが、
 片付けて「片付ける」整理・整頓で
 はない。

なぜなら、「片付け」は、単なる「モノの移動」に過ぎないからだ。

それに対し、「整理・整頓」は、必ず「分ける」という「行為」を伴う。

◎「整理」

「必要」と「不要」を「分ける」

◎「整頓」

「常用」と「非常用」を「分ける」

「必要」要るもの」と「不要」要らないもの」が、「一緒くた」に「混在・混同」していると、イチイチ、そのつど、ワザワザ、選んだり、探さなければ

ばならない。

そのため、「余計な時間」がかかり、イライラする。それゆえ、「整理」の第一歩は、マズ、「必要なもの」と「不要なもの」を「分ける」分別・区別することである。

また、たとえ、「必要なもの」でも「頻繁に使うもの」もあれば、「たまにしか使わないもの」もある。

それらが「一緒くた」に、「混在・混同」していると、「必要なもの」が即座に取り出せない。

つまり、「整頓」とは「常用」頻繁に使うもの」と「非常用」たまにしか使わないもの」を「分ける」分別・区別することである。

☆
 ホテルのバーでは「様々な洋酒」が

提供されるので、イロイロなタイプのグラスがある。「必要なグラス」を、手際よく取り出すには、「整理・整頓」分別化&区別化」が欠かせない。

「頻繁に使うグラス」は、スグ取り出せるように、ちゃんと「手元化」がなされている。

そして、たまにしか使わないもの、たとえば、「多数の時しか使わないワイングラス」は、箱に入れて、棚の上に乗納している。

これが「常用」と「非常用」を、「分ける」分別化&区別化」という「整頓」である。

☆

多数の「似ている工具」は間違いの元である。それを防ぐには、やはり、「分別化&区別化」整理・整頓」が不可欠。

もちろん、「分ける・だけ」でなく、「分けたもの」が、一目で、誰でも「わかり易化」するための「表示化」も抜かりなく、なされている。

改善前(問題点)	改善後(対策)
「洋酒グラス」の種類が多く、管理が大変だった。	「多人数」の時しか「使わないグラス」は「上部の棚」に収納して、表示した。
	
整頓=常用と非常用を分ける	
効果	「グラスの片付け」がラクになった 「必要なグラス」をスグ、取り出せるようになった。

改善前(問題点)	改善後(対策)
「工具箱」の中がバラバラで「必要な工具」を探すのに手間がかかっていた。	「スポンジの型」に収納するようにした。
	
整理整頓 分別化 区別化	
	
わかり易化 探さナイ化	
効果	「必要な工具」が一目でわかり、「探す手間」がなくなった。

「定数と定量化」で「困らナイ化」

肝心な時に、必要な「部品・商品・資材・材料」などが、足らなくなるこ
とがある。

仕事が入り込んでくるので、担当者は
「大目玉」を食らうことになる。

このように「不足」によって、一度
でも、痛い目にあうと、「不足」に対す
る過剰反応のため、次から「余計&早
目」に発注するようになる。

すると、「過剰在庫」になるので、ま
たまたま叱責される。よって、そこで
「何らかの改善」が、なされなければ、
「不足と過剰」という「不都合」が、交
互に繰り返される。

だが、改善マインドのある職場で
は、即座に「定数化・定量化」という
改善がなされる。

それは、「在庫の残り」が一定数に

なると、自動的に発注できるよう
「仕組み」である。

たとえば、

「残り3個になったら、3個発注」
「残り2箱になったら、2箱発注」

——などのように。

そのため、それらの在庫量は、常に、

「最大6個・最小3個」

「最大4箱・最小2箱」

——のように、「一定の範囲」にある
ので、「多少の変動」があっても対応
できる。

すなわち、「過剰」でもなければ、
「不足」でもないという「適正在庫」
を保つのが「定数化・定量化の改善」
である。

☆

ところが、「定数化・定量化」がな

されていない職場では、「担当者」は
いつも、いつも、

「そろそろ注文すべきか」

「いや、もう少し後でもいいか」

——などと考えたり、迷わなければな
らない。

「迷い」は、必ず「間違い・遅れ」に
つながる。「まだ、いいだろう」と油断
していると、うっかり忘れて、手遅れ
になることもある。

ゆえに仕事を「安心化・快適化&ス
ムーズ化」するには、「迷わナイ化」の
改善が必要。

では、「迷わナイ化」するには、どう
すればいいのか。

「商品や資材」のように「在庫量」が
変動するものは、「定数化・定量化」
による「発注や補充」の「自動化」が
効果的だろう。

あるいは、「保守・点検」のような
ものは「定期化・定例化」しておけば、
「忘れナイ化・モレない化」ができ、
「遅れナイ化」↓「慌てナイ化」となる。


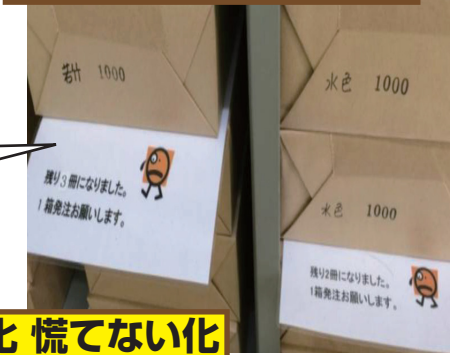
改善前(問題点)	改善後(対策)
「売店の商品」の 在庫がなくて、困った。	「残〇個」になったら、 連絡くださいと 「表示」するようにした。




表示化 定数化 定量化
迷惑かけない化

効果 「在庫切れ」による「お客様への迷惑」がなくなった。

改善前(問題点)	改善後(対策)
「伝票在庫」がなくなっても 誰も「知らん顔」をしている。	「発注カード」を作成 「残り3冊」のところに挟むようにした。

カード化 定数化 定量化
困らない化 慌てない化

効果 誰でも、適時に発注できるようになり、
「在庫切れ」で、困らなくなった。

「モレない化・忘れナイ化」の改善

人間は「忘れる動物」である。また、「うっかりする動物」でもある。それゆえ、仕事でも「モレ・忘れ」が発生する。

「改善のない職場」では、

★「忘れるな」

★「注意せよ」

★「モレないように、気をつけろ」

★「緊張感をもって、仕事をせよ」

——などの「お説教」だけ。

だが、「忘れる動物」である人間に對して、「忘れるな」と命じるのは、「人間をやめろ」と言っているようなものである。

このような「お説教」は、「モレ・忘れ」という問題の解決には役に立たない。

なぜなら、お説教をされた社員も

「ハイ、気をつけます」

「ハイ、注意します」

——と返事をするしかない。

そして、また「モレ・忘れ」が発生すると、今度は、

「2度としないよう気をつけます」

「注意して、再発防止に努めます」

——という応答となる。

だが、いくら「2度としないように気をつけて」も、そこに「具体的な防止対策」がなければ、また「同じこと」が発生する。

☆

「モレ・忘れ」を防ぐには、「気をつけろ」でなく、「気をつけなくてもいいよう」に、「やり方」を工夫すべきだ。それには、あらかじめ・前もって、

◎「チェック・シート化」

◎「マニュアル化」
——などの「補助具活用」が必要。それによって、「素手」で、仕事をやるよりも、多少とも「モレにくく化・忘れニク化」となる。

あるいは、「部品の組み付け」では、あらかじめ、「定数」を専用トレーに「定置化」しておく方法も有効だ。


すると、たとえば、「モレ・忘れ」があっても、「スグ・気づく化」ゆえに「モレっ放し・忘れっ放し」を防止できる。

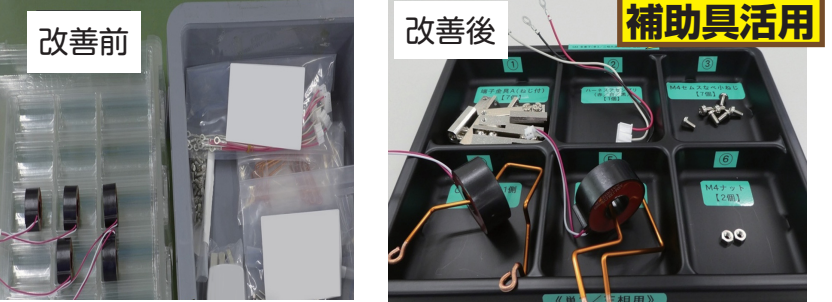
もちろん、「ボカよけフール・ルール」などの「仕組み」によって、「モレない化・忘れナイ化」の改善が

「最善」である。

しかし、「ナイ化」という「最善」がムリなら、せめて、「ニク化」という「次善」でもいい。

それでもダメならば、「次々善」の対策として、「テモ化」＝食い止め化」という改善でもいい。

改善前(問題点)	改善後(対策)
「ブライダル・プラン」の説明で「言い忘れ」や「言葉足らず」で「説明不足」となっていた。	パンフレットに「Q & A方式」のマニュアルを追加。 それを見ながら、見せながら説明する。
 <p>あらかじめマニュアル化</p>	
<p>忘れナイ化 モレない化</p> <p>効果 「言い忘れ」や「説明不足」がなくなった。 「お客様」からも「よくわかる」と好評。</p> <p>わかり易化 やり易化</p>	

改善前(問題点)	改善後(対策)
何種類もの「部品」を組み付けるので「モレ・忘れ」があった。	「専用トレー」に、あらかじめ「作業順」に、部品を用意。 「品名&数量」も明記した。
 <p>補助具活用</p>	
<p>忘れナイ化 モレない化</p> <p>効果 誰が見ても、「一目でわかる」ので、「間違い」や「モレ・忘れ」がなくなった。</p> <p>定数化 定置化</p>	

「表示方法」も変化に対応

改善とは「変化への対応」でもある。なぜならば、「仕事の環境・条件」は、変化しているからだ。

その変化に対応し、常に「より良い方法」へ「変更・工夫」をしなければ、仕事の「やり易化・ラクちん化」は、できない。

ところが、「改善をしない人々」は、世の中が変化しているにも関わらず、相変わらず、

「昔から、こうしているから」

「どうするよつ」、指示されたから」

——などと言って、「旧来のやり方」に固執している。

そして、「困った・困った」と愚痴っている。「変化」に対応して、多少とも「仕事のやり方」を変えなければ、「困りっ放し」となる。

☆

たとえば、「観光&宿泊業界」では、昨今、「外国からのお客様」の増加という変化に直面している。

ゆえに、「表示・案内・接遇」など「仕事のやり方」を、それに合わせて、変えなければ、「様々な不都合」に悩まされる。

「言葉」や「文化・習慣の違い」にも対応できるように「案内・表示」などには「英語化・多言語化」が求められるの言うまでもない。

☆

変化しているのは「顧客・だけ」ではない。従業員にも「高齢化」という変化が押し寄せている。

若い時は、体力に任せて、頑張れば何とかだったものである。だが、いつ

までも、「ガンバリ・だけ」では通用しない。

ならば、高齢化による「気力・体力の衰え」は「補助具活用」などによる「改善」ちょっとした工夫で補わなければならない。


若いころは、「小さな文字」も読めたが、老眼が進むと、そうはいかない。そのため、「何らかの改善」をしなければ、「読み違い」や「見落し」が多発する。

もちろん、「老眼鏡や拡大鏡」など「補助具活用」も必要だろう。しかし、それらと同時に、「文字の拡大化」や「色分け化・強調化・目立つ化」などによる「見やす化・読み易化」という改善も忘れてはならない。

☆

「計器」では、「細かい数値」より、「合・否」の判定が、できれば良いというケースがある。そのような場合、「測定するな、判定せよ」——という「改善の公式」が効果的。

改善前(問題点)	改善後(対策)
「清掃中の看板」なのに「外国人のお客様」が入ってきて、困った。	「英語&中国語」の看板を作成して「日本語の看板」に追加した。
	<p>英語化 多言語化</p> <p>From 9:30 am ~</p> <p>打掃大浴場時請勿入浴</p> <p>CAUTION WET FLOOR</p> <p>謝 謝 合 作</p> <p>THANKS FOR YOUR COOPERATION</p> <p>先手対応 困らナイ化</p>
効果	「清掃中」であることが、よくわかり、困らなくなった。「ご協力に感謝」の表示で、クレームもなくなった。

改善前(問題点)	改善後(対策)
「圧力計」の表示部の文字が小さく、読み取り難い。	基準を「クリアしている範囲」に「グリーン」の帯を表示した。
	<p>表示化 色分け化 ゾーン化</p> <p>クリア範囲</p> <p>一目でわかる化</p> <p>測定するな→判定せよ 見える化 見やす化</p>
効果	「合否の判定」が、老眼でも、簡単に確実にできる。

「写真化」で「見える化」

「和食」では、それぞれの料理に合わせて「様々な食器」を使う。「特別な食器」は普段は「段ボール箱」に収納しているが、必要に応じて、取り出さなければならない。

「改善のない職場」では、イチイチ、そのつど、ワザワザ、「箱の蓋」を開けて見る——という「余計な手間」がかかる。

とりわけ、「忙しい時」には、このような「不毛なムダ」ほど、イラつくものはない。

しかし、「改善のある職場」では、このような「不都合」に対し、即座に「見える化↓わかる化」という工夫がなされる。

「食器の写真」を「段ボール箱」に貼れば、

- ①「スグ・わかる化」
- ②「一目で・わかる化」
- ③「誰でも・わかる化」

——となる。

そのおかげで、イチイチ・そのつど・ワザワザ、「箱を開けて見る」という「余計な手間」から「改善的・手抜き」となっている。

☆

「写真化↓見える化の改善」は、ある市役所の「教育委員会」でもなされている。

「発掘された土器」などは「段ボール箱」に収納していたが、研究に必要なものを取り出すには、やはりイチイチ、そのつど、ワザワザ、「箱を開けてみる」——という「余計な手間」がかかっていた。

- そこで「土器の写真」を貼ることで、
- ①「スグ・わかる化」
 - ②「一目で・わかる化」
 - ③「誰でも・わかる化」
- という改善がなされている。


「現在の食器」と「古代の土器」、また、「サービス業」と「歴史研究」という「業種&職種」の違いはあれど、「見えナイもの」を、「写真化」にて、「見える化・わかる化」という「改善の原則」は共通している。

☆

このような「写真化↓見える化」という改善なども、すでに実施している職場では、まさに、「そんなことは、アタリマエ」に過ぎないだろう。

だが、それまで「そんなこと」すら、「やっていなかった職場」においては、このような「写真化↓見える化」で、「イチイチ・そのつど・ワザワザ」という「余計な手間」から、「改善的・手抜き」ができたのなら、「立派な改善」である。

改善前(問題点)	改善後(対策)
「倉庫の食器」をイチイチ蓋を開けて「探すというムダ」があった。	「段ボール箱」に「食器の写真」を貼った。
	
<p>写真化 見える化</p> <p>一目でわかる化</p> <p>誰でもわかる化</p>	
<p>効果 誰でも、一目で、わかるようになった。 イチイチ、「蓋を開けるムダ」がなくなった。</p>	

改善前(問題点)	改善後(対策)
「収蔵庫」の土器を探すのに「段ボール箱」の蓋を開けて調べていた。	「箱の前面」に「土器の写真」を貼った。
	
<p>写真化 見える化</p> <p>一目でわかる化</p> <p>誰でもわかる化</p>	
<p>効果 必要な土器が、一目でわかるので「膨大な資料」から、短時間で探せるようになった。</p>	

「透明化と吊す化」で改善的収納

「段ボール箱」は中が見えないので、「写真化」などの「表示化」によって、「見える化↓わかる化」をしなければならぬ。

だが、最近は「透明ケース」が普及してきた。そこで、「段ボール箱」を「透明なケース」に変える、つまり、「補助具・変更」によって、表示しなくても、「見える化」を実現させることもできる。

もちろん、すでに「透明ケース」を活用している職場では、そのようなことは、まさに「アタリマエのこと」に過ぎないだろう。

しかし、「段ボール箱」のままで、イチイチ、そのつど「蓋」を開けたり「写真を貼る・ラベルを貼る」など、「余計な手間」をかけていた職場では、

それらを「透明ケース」に切り替えて、「見える化↓わかる化」したのなら、それも「立派な改善」である。

☆

もっとも、「安価な段ボール箱」に比べると、「プラスチックの透明ケース」への「切り替え」には、多少なりとも「余計な費用」がかかる。

ゆえに、「全部の段ボール箱」を、一挙に、「透明化する」のは難しいかもしれない。

だが、「手つとり早く改善実施」の原理は、

- ①「とりあえず、「デキること」から
- ②「とりあえず、「デキる範囲」で
- ③「デキないこと」は「後回し」である。

ゆえに、「全部を一挙に変更する」

——のが難しい場合には、とりあえず、「頻繁に使うもの」から透明化という「部分的な変更」が勧められる。なにしろ、「改善⇨小変」は「小さく変える⇨少しずつ変える」ということなのだから。

ナニゴトも「一挙に・全部」を変えようとするとは「大変⇨大きく変える」である。どうしても「大袈裟なこと」になる。

だが、「大袈裟なこと」も「小袈裟化」すれば、手つとり早く、手軽に、気楽に、即座に実施できる。

☆

なお、「狭い収納スペース」をより有効に活用するには、「吊す」という方法も勧められる。

「重なる・だけ」では「下のもの」を取り出すのに、ワザワザ「上のもの」を移動させなければならぬ。

だが、「吊す化・吊り下げ化」との「組み合わせ」なら、「狭い」という「制約にも対応」できる。

改善前(問題点)	改善後(対策)
「収納棚」が狭く 「食器などの収納」が難しかった。	「透明ケース」と「吊し籠」との 「組み合わせ」で収納した。
	
	
効果	「限られたスペース」を有効活用でき、 「収納→使用」の「やり易化」ができた。

改善前(問題点)	改善後(対策)
「複数種類」が入っている箱は すべてを「ラベル」に書き切れず、 「中身の確認」に手間どっていた。	「透明のケース」に収納した。
	
	
	
効果	「複数種類」が入っていても、箱を開けずに、中身を 確認できるので、「必要なもの」を「探す手間」が省けた。

「小分け化・細分化」で手つとりの早く改善

「手つとり早い改善ノウハウ」とは要するに、「仕事の分解→分割・着手」である。

わかり易く言えば「大きなこと」を「小さなもの」に「分割↓細分化」して、「小さな部分」から攻めるということである。

それを、難しく言えば「着眼大局・着手小局」である。「全体」を見ながら、実施そのものは「小さな部分」から——というのが「手つとり早い改善実施」のコツである。

「分割着手」ということを、もっと噛み砕いて、説明すれば、「一口で、鯨は食べられない」、だが、「一口ずつなら、鯨も食べられる」ということ。

ウンザリする「大量の仕事」でも、

それらを取りあえず、「分解・分割」してみても、少しずつ取り組めば、なんとなかなる。

つまり、

- ◎「大変」を「小変化」
- ◎「大局」を「小局化」
- ◎「大袈裟」を「小袈裟化」
- ◎「大掃除」を「小掃除化」
- するのが、「手つとり早い改善の極意」である。
- 「一軒の家」の全部を掃除するのは「大・掃除」ゆえ、それは「大変」だ。せいぜい「年に1回」くらいしかできないだろう。
- だが、
- ◎「玄関・だけ」
- ◎「台所・だけ」
- ◎「トイレ・だけ」

——という「小・掃除」ならば、毎日でも、あるいは毎週、または毎月でもできる。

☆

「大量の段ボール」を、一挙に片付けるのは「大変」である。どうしても「後回し」となってしまう。

だが、「大量に保管できナイ」ようにしておけば、適時、手軽に片付けることができる。



☆



「仕事の能率」をあげようとして、ついつい、より多く大量に、より速く、一挙にやろう——と考えてしまう。

だが、そのような「足し算の発想」ばかりでは、「負担」が大きくなり、「ムリ」が生じて、かえって、能率が悪くなってしまふ。

そのような場合、逆に、「引き算の発想」、つまり、「やめる・減らす」が勧められる。

すると、「やり易化・ラクちゃん化」となり、結果としては、効率化が可能となる。

改善前(問題点)	改善後(対策)
「段ボール」の整理に「大きな台」にためて、一度に大量に処理していた。	「保管台」を小さくして、「少しずつ処理する」ことで「整理の負担」を軽くした。
	
	縮小化 減少化
効果	大量の段ボールの処理にウンザリしてたが、「少しずつ」なら、手軽にできるようになった。
	負担にならない化 やり易化 手軽化

改善前(問題点)	改善後(対策)
計器の入った「ポリ容器」を台車に「7段」も積んでいた。	「7箱」から「6箱」に減らした。
	
	減らす化 減少化
効果	「背の低い人」でも、「容器の中身」が確認できるようになった。
	やり易化 確実化 負担にならない化

「右のものを左にした・だけ」で改善

— などの効果がある事例を多数紹介することだ。
それによって、「チャチなものほど良い改善」ということも、実感↓納得されるだろう。

☆

一般的に、「右のものを左にする」という表現は「モノの所在・位置」を「右↓左」に移動させるといふニュアンスだろう。

しかし、移動させるべきは「モノ」物体・だけ」に、限定されるものではない。たとえば、

- *「表示の位置」
- *「目印の位置」
- *「モニターのレイアウト」

— なども「移動」の対象となる。もちろん、移動は「右↑左」だけではなく、たとえば、

- *「上↑下」
- *「内↑外」
- *「近↑遠」

— など、イロイロなパターンがある。

なぜなら、世の中には、

「右のものを左にすること・すら」— しないで、いつまでも「やり難い状況のまま」で、仕事をしている人が多々いるからだ。

そのような「会社や職場」で、「右のものを左にした立派な改善」を— と言って、切り捨ててしまうと、それからは、

「右のものを左にする」という「もつとも簡単な改善」すら、誰もしなくなるだろう。

このような「愚劣な弊害」をストップさせるには「だけ・改善事例集」の紹介が勧められる。

すなわち、「〇〇した・だけ」で、少なからず「やり易化・ラクちん化」

「そんなことはアタリマエだ」

「そんなものは改善ではない」

— などより、もっと、もっと邪悪な

「ダメ出し・用語」がある。

それは



「〇〇した・だけ・ではないか」



— というセリフだ。

たとえば、

- *「右のものを左にした・だけ」
- *「横のものを縦にした・だけ」
- *「斜めにした・だけ」
- *「目印をつけた・だけ」
- *「色分けをした・だけ」
- *「ラインを引いた・だけ」

— など。
しかし、「右のものを左にした・だけ」で「仕事のやり易化」となれば、それは「立派な改善」である。

改善前(問題点)	改善後(対策)
「電話の受話器」が「右」にあり、使い難かった。(左手で取るので)	「電話機」をパソコンの「左」に移動。
	
位置変更 右→左	やり易化 ラクちん化
効果 「前任者の状態」のままだと、使い難かったが、電話が取り易くなり、コードも絡まなくなった。	

改善前(問題点)	改善後(対策)
タッチ・パネルの「ボタンの位置」が遠くて、不便だった。	画面のレイアウトを変更して、ボタンの位置を変えた。
	
位置変更 右→左	やり易化 ラクちん化
効果 「不自然な姿勢」だったのが、やり易く、ラクになった。	

「同業」と「異業種」の「組み合わせ」による事例教材

「アタリマエのこと」を
「アタリマエにできる」ように
「仕事のやり方の変更&工夫」
——という改善の「原理・原則」は、
どんな「業種&職種」でも、共通して
いる。

今月号では「〇〇しただけ」という
「アタリマエの改善事例」を「2件」ず
つ紹介している。

もっぱら、「サービス・接客業」と
「製造業」における「改善事例」を、
「上&下」の「組み合わせ」によって解説。
それら「上&下」の「改善事例」を
比べれば、「業種&職種」に関係なく、
「改善の定石」は共通とわかる。
「大変」大掛かりな変更「改革」は
「専門的な知識&技術」が必要なので、
「業種&職種」が異なると、共通点を

見出すのは難しい。

「改善」小変「小さく変える」ちょ
っとした変更&工夫」なら、「業種&
職種」を超えて共通の「改善の原理・
原則・定石」を読み取れる。

ゆえに、「改善の教材」は「同業種の
改善事例・だけ」よりも、むしろ、「異
なる業種&職種の改善事例」との「組
み合わせ」が勧められる。

そのほうが、「視野」が広くなり、
「発想の幅」が拡大される。

なのに、「異なる業種の事例」など
「異質なものを」「拒否・排除」して、
「同業・同類・同質のもの・だけ」を
求めると、どうしても「視野狭窄」と
なり、「発想の幅」が狭くなるので、
「改善力の開発」につながらない。

☆

もっとも、「改善の初心者」は、「異
業種の改善事例」から、共通の「改善
の原理・原則・定石」を読み取るの
は、難しいかもしれない。

そのような人にとっては、「自分の
仕事の内容」とは異なる「異業種の改
善事例」には、抵抗があるだろう。

ゆえに、「改善教育の初期段階」で
は、マズ、何よりも「自職場の改善事
例」の紹介が必要だ。

そして、第二段階では「自社の各部
門」の改善事例を紹介。それによって、
「職種」を超える「改善の応用力」が
いてくる。

そして、第三段階で「同業種の改善
事例」と「自社事例」との「組み合わ
せ」が勧められる。

しかし、いつまでも「同業事例・ば
かり」では「乳離れ」ができナイ。

そのため、改善教育の「離乳食」と
しては、「同業種&異業種」の改善の
「組み合わせ・事例」が勧められる。

改善 = 小変 = 小さく変える は 異なる業種&職種の 改善事例 から学ぶべし

もちろん、改善教育の「初期段階」では
「自社・自職場・同業種」の事例が必要。しかし、

いつまでも **同業・同類・同質事例・ばかり** では
「乳離れ」デキず、**改善力=応用力** につながらない。

もっと、**改善力** をつけるための
改善教育の**離乳食** としての教材には

同業種 & 異業種の 組み合わせ 改善事例教材